

国際交流事後活動ニュース

MACRO COSM

◎カラー特集 都道府県 IYEO の活動

マクロコズム 2001.7



vol. 41

(財)青少年国際交流推進センター

都道府県青年国際交流機構の自主活動より

各都道府県 IYEO では、近年内閣府青年国際交流事業の受入れなど招へい事業への協力を大きく展開していますが、その他に地域に根ざした活動にも数多く取り組んでいます。近年の活動からいくつかを紹介します。

栃木県

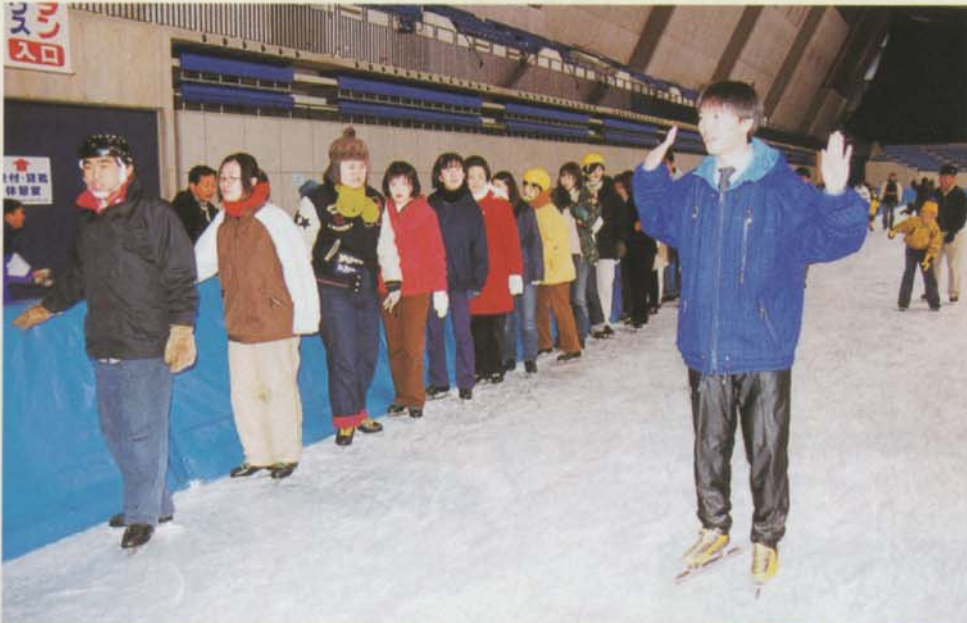
恒例のクリスマスパーティ ▶



極東ののんびり紀行（スタディツアー）
▼ ウラジオストックとハバロフスクの5日間



長野県



▲ 宮部さんのスケート教室
オリンピック選手の宮部氏に指導をしていただきました



広島県



◀ 香港理工大学受入れの際の平和学習

都道府県IYEOの活動

徳島県



日本語教室の際の
焼きそばパーティ



大分県

SALSA NIGHT
みんなでサルサを踊ろう!

宮崎県



恒例の国際交流クッキングパーティ ▶

叶えられた夢 (Part II)

第18回「東南アジア青年の船」
坂本 達

5月号で取り上げた～4年3ヶ月も有給休暇をもらって 世界一周5万5000キロを 自転車で走って
きちゃった男～第18回「東南アジア青年の船」既参加青年の坂本 達さんの特集第II弾！
前号に引き続き、坂本さんと一緒に世界一周自転車の旅をしているつもりでお楽しみ下さい。

「人助けをするのがあたり前」の子どもたち

(トルコ・1997年3月)

「おーい、何をそんなにたくさん運んでいるんだ?!」
トルコ北部。道路沿いで店番している男に、走っている所を呼び止められた。

「僕は日本から来て、自転車でトルコを旅しているんです…」

休憩しながら、その男にチャイ(紅茶)をご馳走になっていると、雨が降り出した。「よかったら家に10歳と14歳の子どもがいるから泊まって行きなよ。」僕は小さな農家に泊めてもらうことになった。日が暮れて、畑仕事から戻ってきた母親と子どもたちは、家の中に僕がいるのに驚くこともなくニコニコしている。夕食は豪快だった。スープの肉やジャガイモはかたまりのまま、サラ

ダの葉は原型のまま。みんなよく働くので、よく食べる！子どもたちは気を遣ってくれて、おかずをまわしてくれたり、パンがなくなるとパッと横に置いてくれたり、チャイをついでくれたり。出発の時は、「またトルコにくるの？」ときびしそうに聞いてくれるのだった。一人で旅を続けていると、こういう出会いが心にしみる。子どもたちは走り去る僕に、いつまでもいつまでも手を振ってくれていたのだった。

トラブゾンという黒海沿岸の街では小学生3人が話しかけてきて、昔の城壁、市場、公園、イスラム寺院などを3時間もかけて案内してくれたのだった。子どもたちは真剣に「この日本人をあそこへ連れていこう」「いや、あそこはつまらない」

主 要 内 容

| | |
|------------------------------|----------------------------|
| 叶えられた夢 (Part II) …………… 5～9 | 第17回全国大会山口大会のお知らせ…………… 14 |
| 自転車世界一周 (第18回SSEAYP参加青年) | ブロック大会について…………… 15 |
| 世界で活躍するために、身につけて | ヤングリーダー フォーラム参加募集…………… 16 |
| おきたい国際マナー (Part II) …… 10～11 | 「にっぽん丸」船上リユニオン参加募集…………… 17 |
| ミクロネシア連邦での日々 …………… 12～13 | 首都圏ボランティア・スタッフ募集…………… 18 |

〈表紙の説明〉

坂本 達氏 著書「やった。」より
「写真を撮ろう！」と言うと、
着替えて出てきたクルド人
の子どもたち(トルコ)

と話し合い、コースを決めていた。道を横断するときも、自ら先へ渡って片手を上げて車を止め、僕に「こちらへどうぞ」とやってくれる。歩きながら僕が遅れると、彼らに追いつくまで待ってくれる。本当にいい子たちだった。驚いたことにその3人組は、最後に広場の喫茶店でチャイをご馳走してくれたのだった！小学生にお金を出させる訳にはいかないので「出すよ、出すから」と言っても、彼らはガンとして受け取らない。

翌日市場を歩いていたら、なんとその少年の一人が声を張り上げながら路上でティッシュを売っているではないか。金持ちの息子かと思っていたら、ちゃんと自分で稼いでいたのだった。少年は照れくさそうにしたが、「昨日はガイドありがとう」と言うと、「どうだ、よかっただろう」という顔をして、素直に笑ったのだった。

トルコでは旅人を「神の客」と呼び、「できる限りのもてなしをしよう」という教えがあるという。子どもたちもその教えにならって、人助けをするのが当たり前と思っているようで、いたく感動したのだった。

命の恩人はチリ第2州の州知事だった！

(チリ&アルゼンチン・1999年9月)

チリ北部の砂漠の町、サン・ペドロ・デ・アタカマから、アルゼンチンのサルタへ向かう。距離にして520キロ、国境にはアンデス山脈を横切る4,080メートルのシコ峠がある。大部分が未舗装だが、フラミンゴのいる広大な塩湖、高地の砂漠、そしてサボテンの溪谷を通る美しいルートだ。

目の前に立ちはだかるアンデス山脈を自転車に登り始めて3日目、標高3,800メートルでテントを張った。午後8時半、ロウソクを消し、今ごろ日本では鯉のぼりが泳いでいるんだなぁ、と思いながら寝袋に包まった。

4日目の朝、人の気配のない厳しい大自然に、自分だけが対話している心地よさと不安が一体になった感覚を覚えている。不毛の大地をさらにアルゼンチンへと向かう。

昼を過ぎてから、なんと頭痛とめまいに襲われた。もしかして……高山病？高度順応のためにゆっくり上がってきたのだが……。やがて食欲もなくなった。典型的な高山病の症状だ！



パキスタン北部、カラコルム・ハイウェイ周辺でキャンプ。誰にも出会うことのない休日

「ふーっ、どうしたらいいんだろう」

高山病の時は動いてはいけない。無理をすると呼吸困難や意識不明になり、死に至る。治すには高度を下げるしかないが、午前中走ってきた強風の中、とても戻る気力も体力もない。水があると言われた10キロ先まで行ってみようか。しかしそこに水があるという保証はない。助けを求めようにも、車は昨日から一台も通らない。体力を温存しながら回復を待つことにした。水は残り1.5リットル。最後は小便を取っておいて飲もう。水分なら何でもいい。

再び風が強くなってきた。今テントを張らないと、後で力があるかわからない。ペグを打ちこみながら、妙な思いに捕らわれる。これは自分の「墓穴」を掘っているんじゃないかと…。

もしこのまま倒れたら、いつ、どうやって僕は発見され、どのようにして日本に知らされるのだろうか。そして遺品は？知らず知らず思考が「死」について流れて行く自分に気づき、はっと我に戻る。

絶望的な思いでテントに入ろうとした時、峠のほうから砂煙を巻き上げながら1台のピックアップ・トラックが来るのが目に入った。僕は目を疑った。まさか！ピックアップはスピードを落とし、倒された自転車の前に止まった。…助かった！

男は自転車を荷台に放り込み11キロも引き返してくれ、酸素ボンベのある国境警備隊まで連れて行ってくれた。そしてアスピリンまでくれた。それにしてもこの男、アスピリンなんか持っているしピックアップも上等だ。一体何者だろう。

国境に着くと、警備隊の隊員たちはピックアップの男に挙手をする。男は僕に名刺をくれた。そ



▲ 酸素ボンベとココ茶(コカの葉のお茶)を分けてくれたチリ警察軍の人たち。国境警備のため、1ヶ月の任期で駐在している

こには「州知事」と書かれていた！一日早くても遅くても出会うことのできなかつた命の恩人は、チリ第2州の知事だったのだ。

助かった。数時間前まで絶望的な状況にあったのに、今、風のない暖かな建物で酸素ボンベを吸っている。高山病や重労働の苦痛を麻痺させる作用があるコカの葉のお茶を大量に飲み、早々と休んだ。「生きている」っていうだけで幸せだった。

今回は高山病のショックで、「しばらく自転車にまたがりたくない」と思ったほどだった。しかし到着したサルタの街で家族同然に迎え入れてくれたアルゼンチン人のおかげで気分を入れ替えられ、再び新たなスタートが切れた。この巡り合わせなしには、僕は再スタートを切ることはできなかつただろう。州知事との出会いにしても、つくづく自分の無力さと人間一人のできることの小ささを思い知らされる。

自転車で世界一周

世界一周の終着点、そして帰国

かくして4年3ヶ月間で43か国を走り、1999年12月、エクアドルの赤道記念碑で旅を締めくくった。

旅を終える瞬間はどんなものかと想像していたが、達成感でも感傷でもなく「これからは新しい世界を生きていくんだ」という一つの区切りを感じただけだった。

これまでのことは、自分が自分の力でやってきたのではなく、宇宙というか神がいれば神というか、すべての存在を包みこむ絶対的な運命のような流れ、「サムシング・グレート」（大いなる意志）にやらせてもらっていたのだと思う。そう考えないと、とても自分一人でやってこられたことではない。

ではこれから何が始まるのか、というハッキリした心象風景はできあがっていなかったが、とにかく感じたのは、今という瞬間があり、命があり、この宇宙が存在していることの嬉しさと、それに対する感謝と感動だった。

昨今「自転車世界一周」というのは珍しくなくなったが、「サラリーマンが休暇をもらい」という前置きがつくため、各方面から講演に呼んでもらえる機会が多い。

これからの活動だが、拙著『やった。』（5月号で紹介）の印税で、お世話になり助けられた人たちに井戸や学校建設をして恩返しをしていきたい。まずはマラリアと赤痢から命を救ってくれた、アフリカのギニアの村から始めたい。決して豊かとはいえない村だったが、医者は一銭の金も受け取ってくれなかった。村長が貴重なニワトリを「これを食べる早く出発しろ」とプレゼントしてくれた、

あの村だ。

正直なところ、会社勤めをしながら本当にそんなことができるのか、という不安のほうが大きい。しかし日々感謝を忘れず、今自分にできることを精一杯実行しながら、自分とこれから出会う人々の「善」を信じてがんばっていきたい。

(株)ミキハウス 社長室人事 坂本達

ホームページをご覧ください。

現在の活動や本の紹介もしています!!

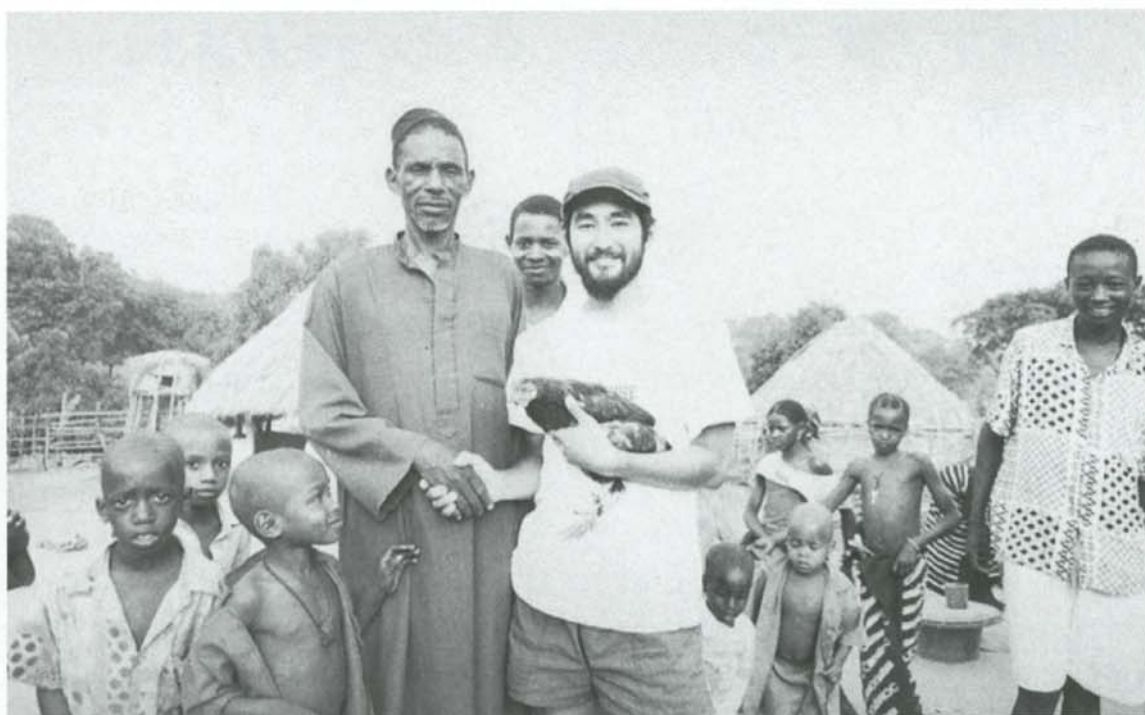
<http://www.mikihouse.co.jp/tatsu>

赤道

4年3ヶ月間「自転車世界一周」の終着点、

▼ エクアドルの赤道記念碑





◀ ニワトリ
村長が貴重なニワトリを「これを食べて早く出発しろ」とプレゼントしてくれた
アフリカのギニア

【坂本 達】

- ・1968年、東京都出身
- ・1975年～1979年 父親の仕事の関係でフランス・パリに暮らす。そこで見たツール・ド・フランス（世界最大の自転車レース）に魅せられ自転車に虜となる。
- ・1990年、第18回「東南アジア青年の船」参加
- ・1992年、早稲田大学卒業、同年株式会社ミキハウスに入社
- ・1995年9月26日～1999年12月28日、4年3ヶ月有給休暇扱いで自転車「世界一周」の旅へ、43か国、5万5000キロを走る
- ・2000年1月～、同社社長室人事に復職、現在に至る

●本の紹介

著書「やった。」～4年3ヶ月も有給休暇をもらって 世界一周5万5000キロを 自転車で走ってきちゃった男～

写真・文 / 坂本 達 出版社：三起商行(株)
四六版 240ページ 本体価格 1,700円

- 「夢の実現」と「一人なのに一人じゃない」そう思えた瞬間を、約250枚の美しいカラー写真とともに綴ったフォトエッセイです。
- この本の印税はすべて、旅で巡り合い助けてくださった方々にお返しいたします。

◎本に関するお問合せ ミキハウス出版部 〒150-8305 東京都渋谷区神宮前1-8-2

Tel 03-3403-2377 Fax 03-3475-4467

e-mail: pub@mikihouse.co.jp

世界で活躍するために、身につけておきたい 国際マナー (PART II)

講師：司 良介氏

(基本的な二つの注意)

個々のマナーについて言うとき際限がなくなるので、大体の心得みたいなもので終わらせていただきたいのですが、例えば日本の常識は外国の非常識、そのまた反対もあるという中で、特に気をつけなければいけないことが2つあります。一つは、どんなに親しくなっても、外国の人との交流の場合には政治の話と宗教の話にはあまり立ち入らないことが原則です。宗教については、特に外国人の場合にはきちっとした考えを持っていますから、それが不合理であろうとなかろうとそれを信じているわけですから、そういうことに絶対立ち入らないことをお勧めします。これは仲良くやるために大事なことです。

もう一つは服装のことです。日本人は春夏秋冬の着替えはしますが、一日の時間の中で着替える習慣はありません。ところがヨーロッパだけではなく、相当広い範囲で、日が暮れたら必ず着替え、昼間のものを脱ぐという場所があります。東南アジアなどでも、ヨーロッパの支配があったためか、そういう習慣が残っています。日が暮れたら必ず着替えています。何も改まったおしゃれをしなければならないということではありません。Tシャツにジーンズにスニーカーという昼間のスタイルで夕食の席に着くというのは具合が悪い。海外に出かける場合には、男性は普通のビジネススーツで色の濃いもので良い。ご婦人方はスカー

トにちょっとおしゃれなブラウスとかワンピースを一枚お持ちになって、靴も昼の靴と履き替えるために一足はお持ちになった方が良いということです。これを守っていないと、急にパーティがある場合に出席できなくなる。そのような所にスニーカーで出かけて行くと必ずひんしゅくをかいます。特にイギリスの場合には、午後のお茶、ハイティーというのがあります。あれも場所によっては正装します。ブラックタイを着ます。そういうことがイギリスではまだ守られているのです。ヨーロッパでも南の方では服装は割合に自由になっていますが、北の方ではきちっとしている所が多いです。同じドイツでもミュンヘンと違ってハンブルグの方ではかなりうるさいのでご注意ください。イタリアやスペインに行くとかかなり自由です。アメリカの西海岸も割と自由ですが、同じアメリカでもボストンなど東側に行くとヨーロッパなみだと考えていただいたほうが良いと思います。そのほかの細かいことは、ここでそれをずっと列挙していきますと1時間も2時間もかかりますので、省略させていただきます。

(マナーとプロトコル)

国と国、例えばアメリカの大統領が日本に来るとか、日本の政府高官が外国を訪ねる場合には、文化の違いが当然あります。従って何か失礼なことが起きてしまったら困るので事前に両国の外務

省の担当官が綿密な打合せをします。時間まで含めて、洋服は何にするのか、どこで何をすれば良いのか、午前と午後ではどういう風に違うかなどです。また、昼食はこういう服装で、夕食はこうしてくださいということもあります。正餐は完全な正装、いわゆるホワイトタイドという取り決めがあります。このことをプロトコルといいます。プロトコルは公式国際儀礼と訳していますが、実はアメリカでは最近、個人的にでも外国人と交際する場合に事前に調べたり、打合せをすることをプロトコルと呼ぶようになって、マナーとプロトコルの意味が非常に接近しています。

（国際交流とマナー）

皆さんの場合、海外の人と交流する際のマナーについて気をつけなければいけないことはたくさんありますが、日本人の現在の常識程度がわかればあまり問題はないと思います。マスコミの発達により、各国の人間は大体このようなものだということがかなり広い範囲に知れ渡っていますので、大きな失礼にはならないと思います。本屋さんに行って一冊マナーの本を買って、その中から自分に必要だと思うところをピックアップして暗記されたら、それで結構通用します。それと、何しろ世界の文化は千差万別ですので、全部理解しようと思うと大変なことになります。よくわからないままに交流しても、多少の間違ひはご愛嬌で済むことがほとんどです。あまり堅くならなくてもよいと思います。ただ、政治の話とか宗教の話にあまり食い込んでいったりすると大きな問題になってしまう危険があるので、それだけは避けてください。服装に関しては、日本人はそういう

習慣がなかったから忘れがちですけれど、日が暮れたら着替えるということを入れて、その分をちょっと用意するとよいということです。これはどこでも守られております。

マナーというと、何でそんなにうるさいマナーが未だにあるのだろうかという人もいますが、要するにルールなのです。スポーツでもルールがなかったらただの喧嘩になってしまいます。ルールには形があり、その形のことをマニュアルと考えれば、マニュアルを覚えて、守れば良いのです。それで、だいたいどこへ行っても何でも通用します。本当は非常に楽なのです。つまり、マナーというものは知っていたら得だということを申し上げたい。ただ交流の壁は言葉ですから、語学が出来ること強みです。今英語を話す国はたくさん増えてきています。フランスでも英語で充分通じるようになりました。それ以外のことであまり細かいことは心配なされない方がよいのではないかと思います。また必要があると思ったら少し勉強していただくしか方法はないということです。それと、日本文化について、もうちょっと関心を持つことで自信をつけていただきさえすれば結構です。後は本などを調べる程度でも充分に海外との交流はできます。相手側も当然そう思ってくれます。昨今は紛争が多いけれども、もう少し人的な交流が多ければあのような血を流さなくても良いような気がします。そういう意味では、皆さま方には国際交流にうんと力を入れていただきたい、努力するに値する、価値ある行為だと申し上げます。この辺で終わらせていただきます。ありがとうございました。

ミクロネシア連邦での日々

川瀬 智子

(平成6年度ジョルダン派遣団団員)
(現：ミクロネシアで協力隊員として勤務)

「私もいつかはあの輪の中に入りたい。」

このような感想を書いたのが育成交流事業に参加し、ジョルダンで青年海外協力隊の活動見学をした大学時代の夏休み。その5年後の冬、私は本当にその「輪」の中で活動すべく、協力隊員として太平洋に浮かぶ小さな島国、ミクロネシア連邦に赴任しました。

事業参加後は、活動にもほとんど参加できず、都合の良いときだけ顔を出したり、地元のNGOを覗いてみるという細々とした事後活動をしていました。ただ、協力隊に関しては単なる憧れだけに終わらせたくない、という思いがあり、当時私が働いていた業種に近い「観光業」という協力隊事業では比較的新しい職種で応募し、現在に至っています。



【ミクロネシア連邦での日々】

ミクロネシア連邦。大小600あまりの島からなり、人口は12万人。スペイン、ドイツ、日本、アメリカの統治を経て今年で独立15年目を迎えました。溢れる緑と美しく豊かな海に恵まれたこの国は産業らしいものは何もないのですが、自然の恵みのおかげで人々はいたってゆったり、「働かなくても食べていける。」と堂々と言ってしまうような環境です。しかし、戦後、アメリカからの経済援助にすっかり頼り切っていたこの国は、独立はしたものの海外からの援助なしでは経済が成り立たない状況に陥ってしまっています。そこでなんとか自立政策を、と打ち出したのが観光業振興で、私はその中で初代観光業隊員として対日本プロモーション・マーケティングを担当しています。活動内容としては日本語のパンフレット作成や日本人観光客の相手、現地観光業従事者に対する日本語やマナー講座、旅行博覧会出展準備、旅行者に対するアンケート調査とデータ収集などです。

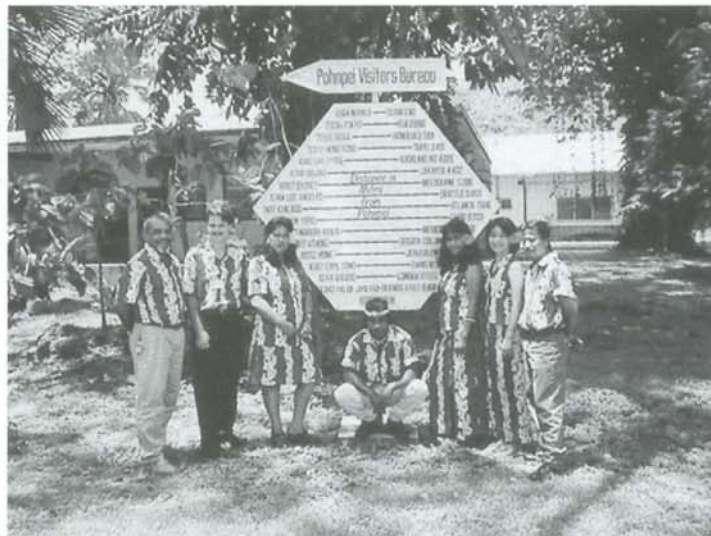
【ミクロネシア連邦の人々】

「南の島の観光局で日本人の相手なんてのんびりしていて面白そう。」と思われがちですが（私自身も実際働き出すまでそう思っていました）、お客さんがいても「お腹が空いたから食べるまで接客しない。」「今日は雨だからもう帰る。」とい

うことがまかり通ってしまうという社会です。複雑な身分制度や土地制度も残っています。「それで本当に自立しようとしているの?! もう、知らない、こんなところ!」と憤ることもしばしばあります。相手に落胆したり、自分の甘さを思い知ることもあります。それでも、パンの実やバナナ、ヤシの木の下で、溢れる太陽の下で、人なつこい笑顔や明るい挨拶に触れると「穏やかないい人達だ。」とほほえましく思い、水平線に沈む夕陽やマングローブ林を鳥がゆったり飛ぶ姿、現地ののどかな日常生活を見ると「あぁ、美しいところだ。」と感激し、結局はミクロネシアのことが好きなんだ、ここの良さをもっとたくさんの人に知ってもらいたい、と思なおすのです。

【目に見えない活動】

サービス業、特に観光業は商品自体目に見えるものではなく、思い出という形で心の中に残るものです。産業自体成熟するのに時間がかかる上に、常に向上を求められ、同じ旅行でも人によって感じ方もさまざま良くも悪くもなります。しかし、いろいろな形で人にアプローチできる分、これほど人の心に残ることのできるものはないのではないかと思います。協力隊が入るとすぐに成果が出ると思いがちな現地にしてみると、結果がすぐに現れないので時には目標を見失ってしまったり、仕事に飽きてしまったりすることもあります。いつかは「そういえば、何年か前に日本人の女の子が来て私達といっしょに働いたっけ。あの頃から比べればこの国の観光産業も充実してきたな。」と、長い目で見ること大切、ということに気付いてもらえれば本望です。



【仲間に支えられて】

ミクロネシアへは交流事業を通じて知り合った方が遊びに来てくださったり、隊員活動視察グループの中に、私がジョルダンへ行った時の団長や、当時のジョルダン隊員で私達の一団をお世話してくださった方が偶然いらっしゃったりと、私とこの事業の不思議な縁を感じざるを得ません。そして、今でもあのときに知り合った仲間からはいつも励ましてもらっています。ジョルダンという国での体験が、私の中で良い思い出というもの以上に熟成されて、その中の形のの一つとして現れたのが協力隊参加で、事業に参加したからこそ今の私があるといっても過言ではないと思います。心の中に残るといふこと以上のものを与えてくれました。ミクロネシアという国も、ここを訪れた誰かにとってかけがえのない存在になり得るような素敵なおところになれるよう、私の活動が少しでも活かされれば、と思います。

青少年国際交流事業事後活動推進大会
日本青年国際交流機構第17回全国大会
第8回青少年国際交流全国フォーラム

「おいでませ！元気のくに、山口へ
～みなちごちよって、みなええほ！」



1. 期 日 平成13年8月4日(土)～5日(日)
2. 会 場 (財)山口県婦人教育文化会館(カリエンテ山口)
〒753-0056 山口市湯田温泉5-1-1 Tel:083-922-2792 Fax:083-932-6417
3. 参加費 一般15,000円 非宿泊8,000円 学生10,000円
4. 申込方法 会員の方は、同封の振込み用紙に必要事項を記入の上、参加費をお振込み下さい。会員以外の方は、ハガキ、FAX又はE-mailに氏名・連絡先・参加費支払い日・支払い方法を記入の上、下記宛先までお申込みください。どなたでも参加できます。
【申込締切日】7月20日(金)(延長)締め切り間近なので、早めにお申込ください。
5. 振込口座 郵便振替口座番号:01320-3-28946 口座名:山口県青年国際交流機構
6. 問合せ先 〒753-0064 山口市神田町1-80
(財)防長青年館内 IYEO 全国大会実行委員会事務局 吉野 環
Tel:083-921-8771 Fax:083-928-1669 E-mail:y-iyeo@mx5.tiki.ne.jp
7. プログラム 8月4日(土) 開会式/基調講演 演題:「Somewhere over the rainbow」
講師:山口県副知事 大泉博子氏
分科会(詳細下記参照)/歓迎交流会
8月5日(日) 次回開催県への引き継ぎ/きらら博参加・見学/解散

【分科会の内容】

1. インターナショナル・クッキング体験 代表:桑原 恵美
山口で出来た「国際交流ランチ」を一緒に料理しましょう。郷土料理、韓国料理など盛りだくさんです。
2. 韓国の伝統芸能～サムルノリを体験しよう 代表:水嶋 由有子
きらら博のステージを兼ねて来日している慶南国楽団の皆さんからの直接の指導により本格的な体験が味わえます。
3. 「ここが変じゃね日本人! in 山口」テーマ:恋愛 代表:梅本 直子
在住の方々と事前に回収した皆様からのアンケートを基に恋愛バトルを交わします。ご期待ください!
4. 既参加青年による体験スキット(きらら博に出演しよう) 代表:中村 道子
内閣府主催の青年国際交流事業についての説明とそれぞれの事業で印象に残っている出来事を集め、簡単なスキットにして楽しくわかりやすく「きらら博」で披露しましょう。
発表時間は8月5日 ①13:00～13:30、②15:00～15:30、③17:45～18:15に決定!!
5. 郷土の伝統芸能～金魚ちょうちんを作ってみよう 講師:難波 光枝/代表:更家 由里子
柳井市伝統文化・特産品の「金魚ちょうちん」を作ろう! ※別途材料費 1,000円(当日いただきます)
6. あなたも挑戦～世界の遊び・日本の遊び 代表:中野 智昭
けん玉、おはじき、折り紙からバンブーダンス、ブルアヤム、チョコカ、セバタクロウ、ユンノリなど遊びの世界へご案内します。

日本青年国際交流機構平成 13 年度ブロック大会について

IYEO ブロック大会は毎年ブロック毎に一度開催されております。今回ご案内する北海道・東北ブロック大会および九州ブロック大会は下記の日程で開催されますので、お誘い合わせの上、是非ご参加ください。また、他ブロックからの参加も大歓迎ですので、是非ともご参加ください。

<北海道・東北ブロック大会>

日時： 平成 13 年 10 月 13 日（土）～14 日（日）
 会場： 名川町チュリウス（青森県三戸郡名川町）
 主なプログラム： 体験学習・歓迎交流会
 問合せ先： 奥谷史人（青森県青年国際交流機構会長・大会実行委員長）
 Tel/Fax: 0178-75-1594 E-Mail: okutani@kb3.so-net.ne.jp

<九州ブロック大会>

日時： 平成 13 年 9 月 22 日（土）～23 日（日）
 会場： 宮崎中央公民館・宮崎オリエンタルホテル（宮崎県宮崎市）
 問合せ先： 上杉聖次（宮崎県青年国際交流機構会長）
 Tel/Fax: 0982-37-0690 E-Mail: Niwa2828@ma.wainet.ne.jp

平成 13 年度青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）開催日程

| ブロック | 開催地 | 開催日 | ブロック構成都道府県 |
|--------|------------|--------------------------|--------------------------|
| 北海道・東北 | 青森県 名川町 | 10 月 13 日～14 日 | 北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 |
| 関東 | 群馬県 水上町 | 12 月 1 日～2 日 | 茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨 |
| 北信越 | 石川県 金沢市 | 10 月 27 日～28 日 | 新潟・長野・富山・石川・福井 |
| 中部 | 静岡県 | 11 月 3 日～4 日 | 静岡・愛知・岐阜・三重 |
| 近畿 | 京都府 | 平成 14 年 1 月 26 日～27 日 | 滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山 |
| 中国 | 広島県 | 平成 14 年 1 月 19 日～20 日 | 鳥取・島根・岡山・広島・山口 |
| 四国 | 愛媛県 | 平成 14 年 1 月 26 日～27 日 | 徳島・香川・愛媛・高知 |
| 九州 | 宮崎県 宮崎市 | 9 月 22 日～23 日 | 福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄 |

21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい

「ヤングリーダーズ・フォーラム」参加青年募集！

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業で招へいされる「東南アジア青年の船」と「世界青年の船」の既参加国21か国の外国青年とのフォーラムを開催します。日本代表参加青年の募集を行いますので応募希望の方は詳細をお問い合わせ下さい。

日 程：平成13年9月28日（金）～30日（日）〔2泊3日〕

参加経費：無 料

参加条件：25才から39才位まででディスカッションが可能な英語力を持つ者
経済、教育、ITの内の一つの分野を職業に持つか、研究テーマとしている者

募集人数：20名

資料請求：〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階

財青少年国際交流推進センター「ヤングリーダーズ・フォーラム」担当

TEL. 03-3249-0767 FAX. 03-3639-2436

E-mail: hq@iyeo.or.jp

〔担当：大橋〕

「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業の概要

★目 的

21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい事業は、世界各国の社会的分野で既に活躍している青年リーダーを日本に招へいし、日本の青年リーダーと各種のプログラムを行うことにより、日本に対する理解の促進を図り、日本及び各国の青年相互の友好と理解を促進し、併せて日本の青年の国際的視野を広げ、国際協力の精神と継続的な平和を希求する精神をかん養し、国際協力における実戦力を向上させ、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、参加青年が青少年健全育成活動に寄与することを目的として実施する。

- (1) 実施時期 平成13年9月26日（水）～10月10日（水）
- (2) 招へい者 「東南アジア青年の船」及び「世界青年の船」参加国の内21か国の外国既参加青年及びその他の招へい国17か国からの計38か国約170名

「にっぽん丸」船上パーティのお知らせ



12月に開催される予定であった「リフレッシュクルーズ」を楽しみにしていたのに、延期になってしまって残念～！！！！と思った方は大勢いらしたと思います。久しぶりの再会を図ろうと、内閣府の各「青年の船」事業に参加したメンバーで、同窓会を企画していた方、船事業には参加していないけれど「にっぽん丸」でのクルーズを楽しみたいと考えていた方、昨年のリフレッシュクルーズに引き続き、今年もまた乗船を心待ちにしていた方、さまざまな方の声を聞きました。

～そこで、お知らせです～

リフレッシュクルーズは延期となりましたが、「にっぽん丸」船上パーティを開催します。

是非この機会を、同窓会や懐かしいメンバーとの顔会わせの場に、もしくは新しい人脈作りに役立ててください。きっと素敵な出会いと感動があるはずです。

どなたでも参加可能ですので、お友達、ご親戚を誘ってお越しください。



日時: 9月10日(月)
18:00～(受付開始)
ティーサービス
19:00～
21:00(パーティー)

場所: にっぽん丸船上
(晴美埠頭停泊中)

費用: 日本人 7000円
外国人 5000円

☆世界のお料理を、思う存分お楽しみください

【参加申込方法】

氏名・住所・電話・FAX・E-mail・参加事業を明記の上、郵送・FAXまたはE-mailにて9月3日(月)までにお申込ください。

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町2-35-14 東京海苔会館6階 日本青年国際交流機構
TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436 E-mail:hq@iyeo.or.jp 担当:大橋・田中

第28回「東南アジア青年の船」国内受入プログラム 「アジア青年のつどい」 ローカル・ユース募集！

国際交流に関心のあるフレッシュな青年をご紹介ください！

「アジア青年のつどい」(「東南アジア青年の船」に参加する11ヶ国の青年と国際交流をする合宿プログラム)に参加してくれるローカル・ユースを募集しています。フレッシュな仲間を増やしたいので、18歳から35歳までの国際交流に関心のあるお友達・お知り合いがいましたら、ぜひご紹介ください。

「アジア青年のつどい」

日 程： 2001年9月9日(日)～11日(火)[2泊3日]

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターおよび都内各所にて

事前研修： 2001年8月18日(土)～19日(日)[1泊2日]

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センターにて

参加費： 500円(ボランティア保険経費等として)

参加資格：

- ・ 年齢 18歳～35歳
- ・ 「アジア青年のつどい」および「事前研修」に全日程参加できる方
- ・ 日常会話以上の英語ができる方
- ・ ASEAN諸国の青年との交流に関心があり日本を伝えようという意識のある方

ご応募・ご紹介、お待ちしております！



【資料請求先】 日本青年国際交流機構

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-35-14 東京海苔会館 6階

E-mail: temporary@iyeo.or.jp URL: <http://www.iyeo.or.jp>

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436 担当 渡辺ゆり恵 渡辺洋介



(財)青少年国際交流推進センター
スタッフ紹介

★センター職員
の人数も年々
拡大しており
ます。今後と
もどうぞよろ
しくお願いし
ます。

★日本青年国際交流機構の活
化と共に、推進センターの事務
局の規模も拡大してきました。



▲スタッフ一同、山田理事長を囲んで

【総務部関係】

上棚 正一 (事務局次長) (第2回「青年の船」管理部)
大淵 清子 (総務部主任)
高橋 善春 (総務部主任) (第11回「世界青年の船」管理部)

【事業部関係】

大橋 玲子 (事務局次長) (第14回「青年の船」団員)
赤沢 美雪 (主任) (平成6年度ジョルダン派遣団員)
齋藤 珠恵 (第10回「世界青年の船」団員)
酒井 昇 (第9回「世界青年の船」団員)
田中 佐代子 (第11回「世界青年の船」団員)
渡辺 洋介 (平成12年度日本・中国青年親善交流事業団員)
渡辺 ゆり恵 (第26回「東南アジア青年の船」団員)

『アルバイトスタッフ』

小川 洋美 (総務部)
平田 万百里 (第20回「東南アジア青年の船」団員)
篠原 亜紀子 (第23回「東南アジア青年の船」団員)
本田 温子 (第11回「世界青年の船」団員)



平成13年度 内閣府政策統括官（総合企画調整担当）
青年国際交流事業
～ボランティアスタッフ募集～Part II

- ◆第28回「東南アジア青年の船」事業（約30名×10か国 来日）
・9月5日（水）都内視察 3名×33コース 募集（要英語力）
・9月6日（木）課題別視察 3名×11コース 募集（要英語力）

上記事業のボランティアスタッフをご希望される方は、事務局まで直接電話・FAX・E-mailにてご連絡下さい。詳細をお知らせ致します。

なお、募集頂いた方には事前に行われる（財）青少年国際交流推進センターでの打ち合わせ（事業開始約1ヵ月前を予定）に参加して頂くことになります。多数のご応募お待ちしております!!

【お問い合わせ先】

〒103-0013
東京都中央区日本橋人形町2-35-14
東京海苔会館6階
（財）青少年国際交流推進センター
TEL：03-3249-0767 FAX：03-3639-2436
E-mail：hq@iyeo.or.jp
担当：渡辺（ゆり恵）・渡辺（洋介）



編集後記

事業既参加青年の世界での活躍が頼もしく感じる原稿が次々と寄せられます。国際交流事業を初め多くの体験で自分を成長させステップを踏んで

いく姿は、世界の未来の明るさを信じさせてくれます。暗いニュースの多い昨今ですが、皆で力を合わせて未来を切り開く力を信じたいものです。

*本誌の年間講読をご希望の方は、（財）青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 7月号 Vol.41 2001年7月1日発行（隔月発行）

編集：マクロコズム編集委員会

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

TEL 03-3249-0767

FAX 03-3639-2436

e-mail hq@iyeo.or.jp

URL http://www.iyeo.or.jp

編集協力：内閣府政策統括官
（総合企画調整担当）

日本青年国際交流機構

定 価：198円（本体189円）

印刷所：株式会社 絢文社

TEL 03-3959-3960

青少年国際交流を考える集い（ブロック大会）

平成12年度も全国大会が開催された北信越ブロックを除く7ブロックで「青少年国際交流を考える集い」が開催されました。各地のプログラム作りにおいては、一般の方も参加できる部分をつくることを意識していることが最近の特徴です。参加者は、それぞれの活動についての情報交換を行いながら交流を深め、次の活動への意欲を確認しあいました。



▲ パネルディスカッション

北海道・東北ブロック（北海道）

近畿ブロック（大阪府）

懇親会での楽しい一時 ▼



中国ブロック（岡山県）

▼ 新入会員の帰国報告会



全員集合 ▲

関東ブロック（山梨県）

360° Relax

にっぽん丸・ふじ丸



感動航海クルーズラインアップ

ふじ丸

長崎くんちと天草クルーズ

東京→天草(三角)→長崎→東京

10月5日(金)～10日(水)6日間 162,000円～690,000円

○食事:朝食5回、昼食5回、夕食5回

ふじ丸

瀬戸内海周遊と大正浪漫の門司クルーズ

名古屋→門司→名古屋

11月23日(金)～26日(月)4日間 88,000円～414,000円

○食事:朝食3回、昼食4回、夕食3回

ふじ丸

サンタクルーズ瀬戸内周遊

神戸発着

12月14日(金)～16日(日)3日間 60,000円～278,000円

○食事:朝食2回、昼食2回、夕食2回

ふじ丸

サンタクルーズ東京A

東京発着

12月21日(金)～22日(土)2日間 30,000円～138,000円

○食事:朝食1回、夕食1回

ふじ丸

サンタクルーズ東京B

東京発着

12月22日(土)～23日(日)2日間 30,000円～138,000円

○食事:朝食1回、夕食1回

ふじ丸

サンタクルーズ東京C

東京発着

12月23日(日)～24日(月)2日間 34,000円～140,000円

○食事:朝食1回、昼食1回、夕食1回

国土交通大臣登録旅行業第946号◎(社)日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員

主催



商船三井客船

〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3の6 秀和紀尾井町パークビル5階

◎旅行業務取扱主任者/内山勝美 <http://www.mopas.co.jp>

MOPASは商船三井客船の愛称です。

もっと自由に、ずっと素敵に。

広い空と青い海に囲まれて 悠久の時を過ごす。
波に誘われるまま旅立つ、くつろぎと自由の航海。
そこには、あなただけの 特別な時間が待っています。

ふじ丸●総トン数:23,235トン 船客定員:600名 全長:167m/全幅:24m

2001.10~2002.3

ふじ丸

鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズ

横浜発着

3月8日(金)~10日(日)3日間 54,000円~264,000円

○食事:朝食2回、昼食1回、夕食2回

ふじ丸

春の東京ワンナイトクルーズ

東京発着

3月10日(日)~11日(月)2日間 30,000円~138,000円

○食事:朝食1回、昼食1回、夕食1回

ふじ丸

小笠原スプリングクルーズ

東京→二見(小笠原・父島)→東京

3月12日(火)~17日(日)6日間 136,000円~598,000円

○食事:朝食5回、昼食4回、夕食5回

にっぽん丸

ニューイヤークラム・サイバークルーズ

東京→グアム→サイパン→東京

2001年12月29日(土)~2002年1月6日(日)9日間

298,000円~1,136,000円

○食事:朝食8回、昼食9回、夕食8回

※上記の旅行代金は、ふじ丸のグループ4(4名1室)および、
にっぽん丸のグループ3(3名1室)から、スイートルーム(2名1室)までの
大人お一人様の代金です。

※グアム・サイバークルーズを除く代金は消費税を含みます。

※オプションツアー(別途料金)もご用意いたします。

但し鳥島周遊アホウドリ・ウォッチングクルーズは除く。



お問い合わせ・お申し込みは、お近くの旅行会社または、商船三井客船クルーズデスクまで。

クルーズデスク
〈フリーダイヤル〉



0120-791-211

チャータークルーズのお問い合わせは
03-5211-5221

※最少催行人員2名。※全日程船中泊。
※添乗員は同行しませんが現地及び船内係員がお世話いたします。
※お問い合わせの時点で、すでに満席となっている客室タイプもございますので
予めご承知をお願いします。

行ってらっしゃい、
いい旅へ。



豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。
大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

旅のすべてを知っている東急観光です。



豊かな感動のステージへ
東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号
<http://tour.tokyu.com>